

常磐自動車道（県境～山元）建設工事に伴う発掘調査

宮城県
山元町

たに けら い せき
谷 原 遺 跡

— 現地説明会資料 —



E区調査区全景（南より撮影）

平成22年9月26日（日）13:30～

山元町教育委員会

1. 調査要項

遺跡名：谷原遺跡（遺跡登録番号 14010）

所在地：宮城県亶理郡山元町山寺字谷原地内

調査原因：常磐自動車道（県境～山元間）建設工事

調査主体：山元町教育委員会

調査担当：山元町教育委員会生涯学習課

調査協力：東日本高速道路株式会社・宮城県教育庁文化財保護課

調査期間：平成 22 年 5 月 19 日～平成 22 年 10 月末（予定）

調査面積：約 1,800 m²（E 区 1,500 m²・G 区 300 m²）

2. 遺跡の概要

谷原遺跡は、谷原川と山寺川に挟まれた緩やかな平坦面に立地する縄文時代～中世にかけての遺跡で、平成 19・20 年に実施した分布調査によって発見されました。本遺跡は、平成 20 年度に町道山下山寺線道路改良工事の際に山元町教育委員会が主体となり発掘調査を実施しており、今回が 2 次調査になります。1 次調査では、縄文時代中期～後期の土坑、平安時代頃の掘立柱建物跡・溝跡・土坑、中世以降の柱穴跡などが発見されました。

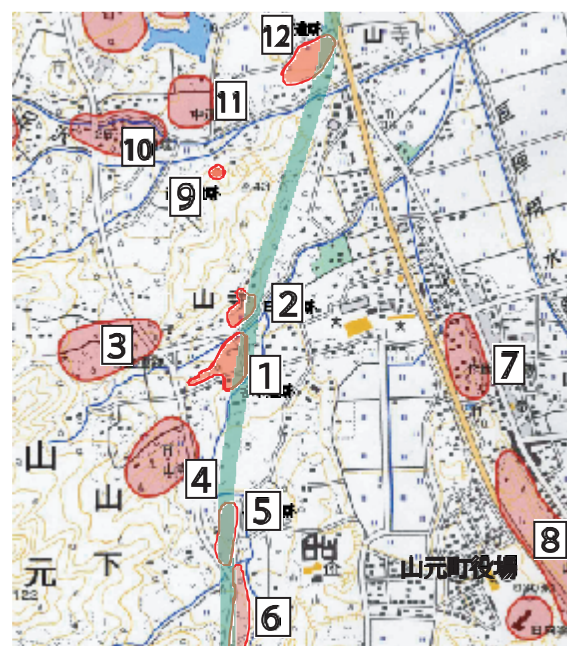
今回の調査（2 次調査）は常磐自動車道建設工事に伴うもので、現在のところ、縄文時代の遺物包含層・土坑、古墳時代後期頃の竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡・溝跡・土坑などが各時代におたる人々の生活の跡が発見されています。

3. 周辺の遺跡と発掘調査箇所

谷原遺跡の周辺には、縄文時代の中島貝塚や古墳時代の石堂遺跡、奈良・平安時代の日向遺跡、中世の山寺館跡など各時代の遺跡が点在しています（第 1 図）。

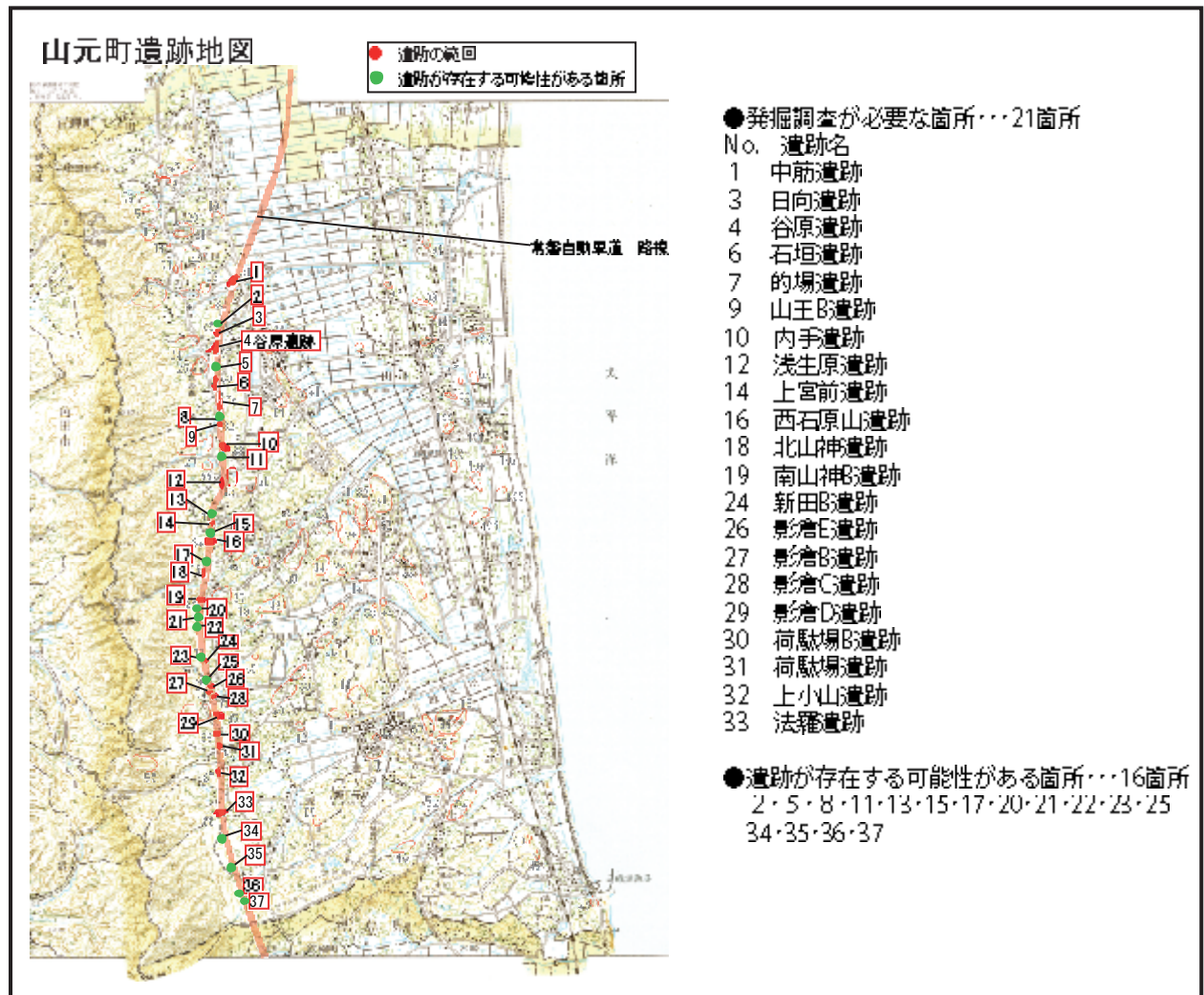
常磐自動車道施行路線内には、発掘調査の必要な遺跡が 21 箇所、新たに遺跡が発見される可能性のある場所が 16 箇所あり（第 2 図）、今年度から宮城県教育委員会と山元町教育委員会が分担して発掘調査を実施しています。

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	谷原遺跡	縄文～中世	7	作田山館跡	中世
2	日向遺跡	奈良・平安	8	山下館跡	中世
3	石堂遺跡	古墳・古代	9	赤坂遺跡	縄文
4	山寺館跡	中世	10	中島貝塚	縄文
5	石垣遺跡	奈良・平安	11	中道遺跡	古墳
6	的場遺跡	古墳～中世	12	中筋遺跡	奈良～中世



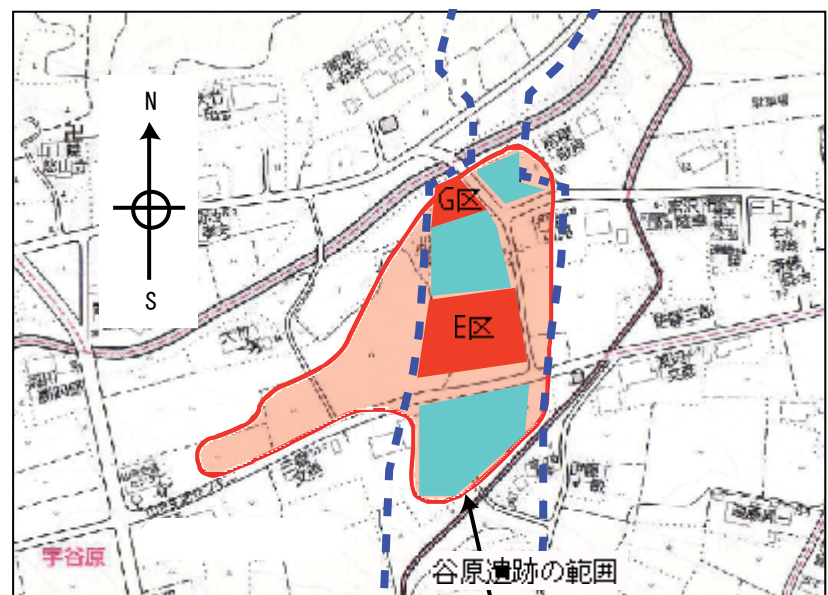
第 1 図 谷原遺跡の位置と周辺の遺跡

第2図 常磐自動車道(県境～山元間)路線内の遺跡



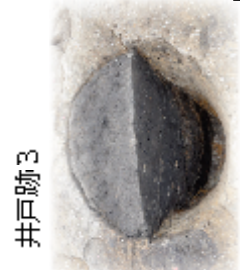
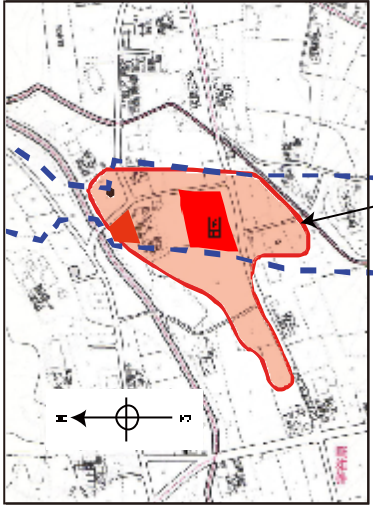
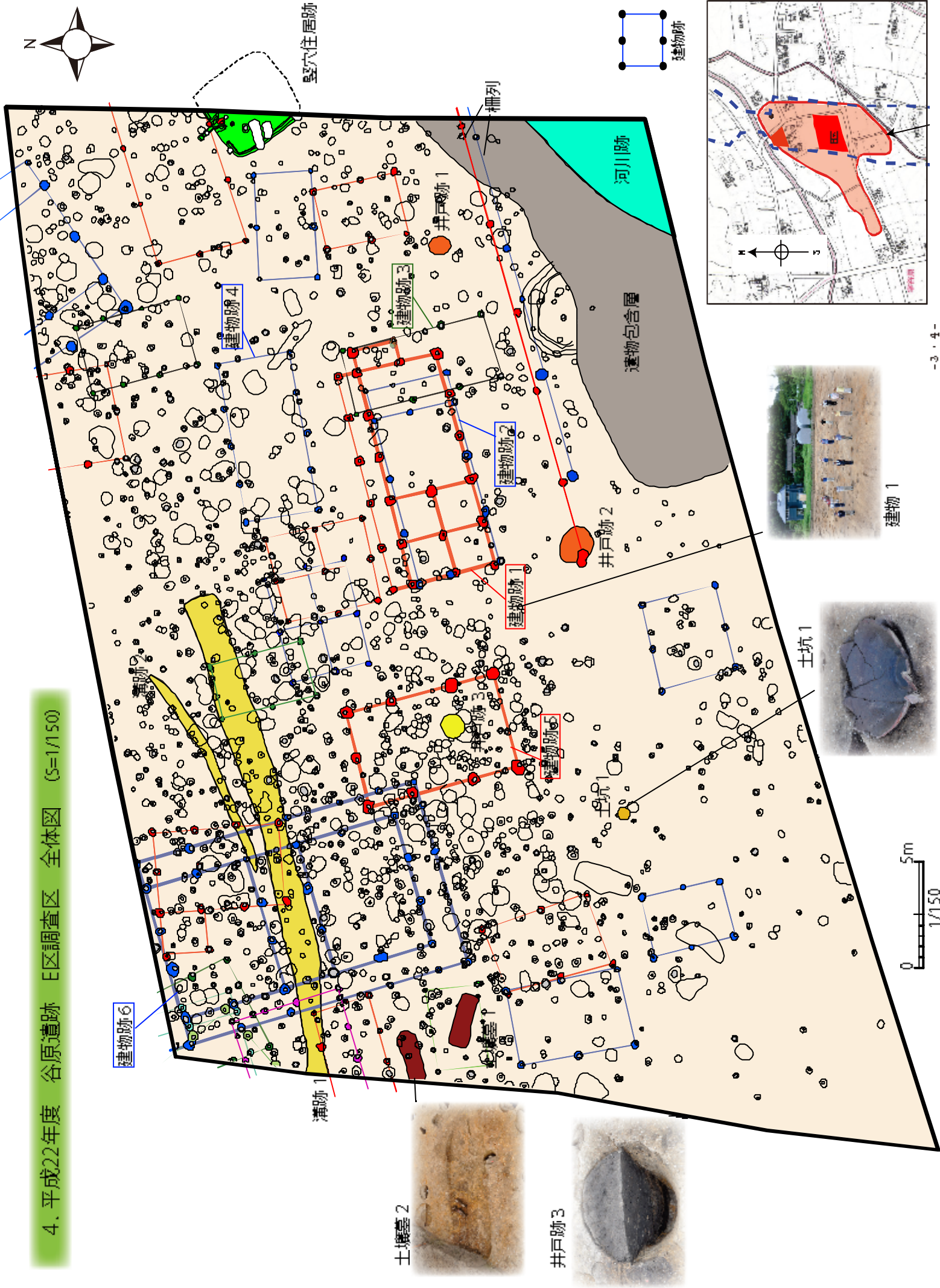
第3図 谷原遺跡の調査地点

今年度の谷原遺跡の調査箇所は、第3図のとおりです。調査面積は、E区が約1500㎡、G区が約300㎡で、調査が必要な全面積の約3分の1程度になります。来年度以降、用地買収等の進捗状況に合わせて残りの範囲の発掘調査を実施する予定です。



- 平成22年度の調査地点(E区・G区)
- 来年度以降の調査予定箇所
- 常磐自動車道 路線幅

4. 平成22年度 谷原遺跡 E区調査区 全体図 (5=1/150)



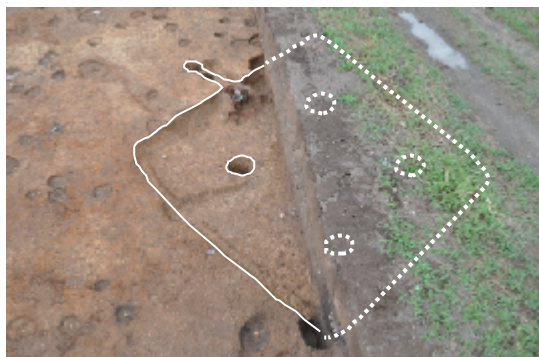
5. 発見された主な遺構と遺物

今回の調査では、**竪穴住居跡**、**掘立柱建物跡**、**井戸跡**、**土坑**、**溝跡**、**遺物包含層**、**河川跡**などが見つかっています。

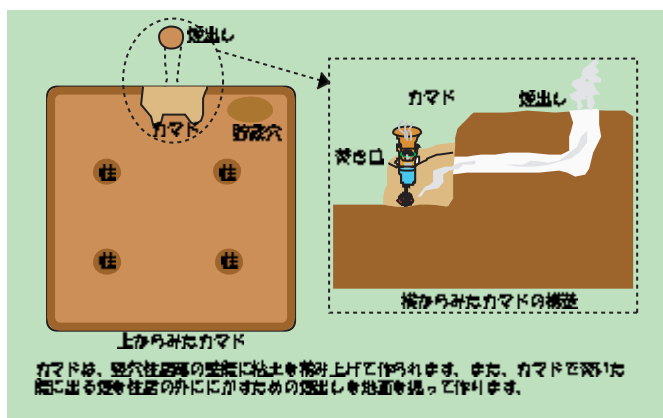
(1) 竪穴住居跡

調査区東側で古墳時代後期頃（7世紀前後）の竪穴住居跡を1軒発見しました。住居跡は調査区東側で確認されたため、住居半分のみを調査しました。

住居は一辺3.5m以上の隅丸方形を呈し、北壁にカマドが設けられていました。住居跡からは、土師器坏・高坏・甕が出土しています。



↑ 竪穴住居跡の様子（南から撮影）

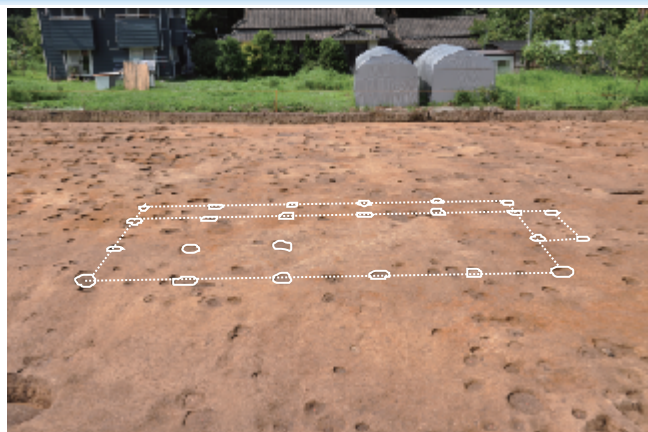


↑カマド模式図

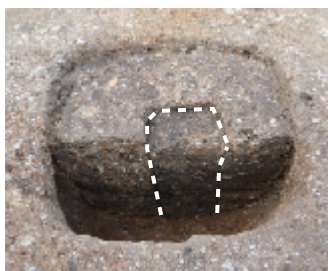
(2) 掘立柱建物跡

E区では鎌倉～室町時代の掘立柱建物跡の柱穴跡が約2,000基見つかり、現在のところ、建物が26棟以上存在することが明らかとなっています。柱穴跡からは中世陶器などが出土しています。

建物1は東西10m・南北5mの建物跡で、北側に庇、東側に張り出しが付きまます。現在確認されている建物跡の中でも大型のものになります。また、他の建物跡が柱に「丸柱」を使用しているのに対し、建物1は「角柱」を使用していることから、本遺跡の中心的人物が住んでいた建物である可能性が考えられます。



↑建物1の様子（南から撮影）



↑建物1の柱穴跡



↑無数の柱穴跡

(3) 井戸跡

井戸跡は3基見つかっています。現在のところ、井戸跡の年代を決定できる遺物が出土していないため、詳しい年代は不明ですが、周辺の掘立柱建物跡で生活した人たちが利用したものであると考えられます。井戸跡1は、直径約1m、深さ約1.8mの素掘りの井戸で、大きな石と小さな石を交互に敷き詰めて埋められていました。



↑ 井戸1の様子 (東から撮影)

(4) 土坑・溝跡

土壇墓2基、陶器を据えた土坑1基、溝跡2条が見つかっています。これらはいずれも出土遺物などから鎌倉～室町時代のものと考えられます。

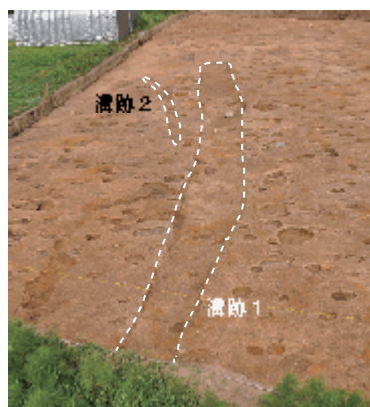
土壇墓1は幅0.9m・長さ2.5m・深さ0.2mの隅丸長方形を呈し、鎌倉・室町時代の柱穴を切つてつくられています。

土坑1は直径0.5m・深さ0.2mの円形を呈し、中世陶器の甕が据えられていました。水や油・食糧などを貯蔵するために穴を掘って甕を据えたと考えられます。据えられていた中世陶器はその焼き方や使用した粘土の特徴などから白石周辺で生産されたものであると思われる。



↑ 土壇墓の様子 (南から撮影)

溝跡は調査区北西部で見つかっています。溝跡1は、幅0.7～1.7m、深さ0.2m、長さ23m以上で、調査区西側へ延びる溝であると思われる。現在のところ、その性格は不明です。溝跡からは中世陶器などが出土しています。



↑ 溝跡1・2の様子 (南から撮影)



↑ 中世陶器を据えた土坑 (東から撮影)

(5) その他

E区ではこの他に縄文時代中期後半～後期前半頃の遺物包含層や鎌倉・室町時代以前の河川跡が見つかっています。遺物包含層からは、縄文土器、土製品、石器が出土しています。遺物包含層は、E区南東の地形的に低い所に分布していることから、当時の人たちが不要になったものを投げ捨てたり、使用した土器などが流れ込んだ場所であると推測されます。



↑ 遺物包含層と旧河川跡の様子 (北から撮影)

6. まとめ

(1) 今回の調査では、縄文時代中期後半～後期初頭頃の遺物包含層（ゴミ捨て場）・土坑、古墳時代後期頃の竪穴住居跡、鎌倉時代～室町時代の掘立柱建物跡・井戸跡・土坑などを発見し、そこから縄文土器、石器、古墳時代の土師器、中世陶器、かわらけ、鉄製品などが出土しました。特に鎌倉～室町時代の掘立柱建物跡を構成する無数の柱穴跡が確認され、これまで知られていなかった中世の大規模な集落の存在が明らかになったことは、亶理郡の中世史を考える上で貴重な発見となりました。

(2) 来年度以降、今回の調査区の北・南の調査を予定しており、今後の調査で谷原遺跡の性格がより詳しく明らかになると思われます。

関 連 年 表

	年代	日本・世界の出来事	山元町の主な遺跡	
旧石器時代			一ノ沢遺跡（中山）	
縄文時代	草創期	12000 年前	北経塚遺跡（小平）	
	早期	10000 年前		
	前期	6000 年前	・三内丸山遺跡（青森県）で大集落が営まれる	
	中期	5000 年前	谷原遺跡（山寺）	
	後期	4000 年前	・黄河文明・エジプト文明・インダス文明	谷原遺跡（山寺）
	晩期	3000 年前		中島貝塚（鷺足） 影倉遺跡（久保間）
弥生時代	2300 年前	・日本に稲作が伝わる ・邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る（239 年）	上台遺跡（真庭）	
古墳時代	前期	西暦 300 年	北経塚遺跡（小平）	
	中期	400 年	合戦原遺跡（合戦原）	
	後期	500 年	・仏教が伝わる（538 年） 狐塚遺跡（町）	
飛鳥時代	600 年	・大化の改新（645 年）	井戸沢横穴墓群（下郷）	
奈良時代	700 年	・平城京 遷都（710 年） ・多賀城がえられる（724 年）	谷原遺跡（山寺） 館の内遺跡（大平）	
平安時代	800 年	・平安京 遷都（794 年）	北名生東築跡（合戦原）	
鎌倉時代	1200 年	・源頼朝が鎌倉幕府を開く（1192 年）	谷原遺跡（山寺）	
室町時代	1330 年	・後醍醐天皇による建武の新政（1334 年）	北経塚遺跡（小平）	
戦国時代	1460 年	・応仁の乱（1467 年） ・織田信長入京（1568 年） ・豊臣秀吉全国統一（1590 年）		
江戸時代	1600 年	・徳川家康、江戸幕府を開く（1603 年）	養首城跡（下郷）	